



著者プロフィール

筑紫磐井. (つくし・ばんせい).

昭和25年1月14日、東京都に生まれる。

俳誌「沖」を経て、「豈」同人。現在、「豈」発行人。

句集に『野干』（平成元年、東京四季出版）、『婆伽梵』（平成4年、弘栄堂書店）、『花鳥調詠』（『筑紫磐井集』〈平成15年、邑書林〉に収録）。

評論集に『飯田龍太の彼方へ』（平成6年、深夜叢書社）（第9回俳人協会評論新人賞）、『定型詩学の原理』（平成13年、ふらんす堂）（加藤郁乎賞）、『近代定型の論理』（平成16年、豈の会）（前著と併せて正岡子規国際俳句賞特別賞）、『詩の起源』（平成18年、角川学芸出版）、『標語誕生！』（平成18年、角川学芸出版）、『女帝たちの万葉集』（平成22年、角川学芸出版）。共編著に『相馬遷子——佐久の星』（平成23年、邑書林）、『俳句教養講座』全三巻（平成21年、角川学芸出版）、『新撰21』【超新撰21』（平成21・22年、邑書林）、『現代一〇〇名句集』全一〇巻（平成16～17年、東京四季出版）、『撰津幸彦全句集』（平成9年、沖積舎）他多数。

俳人協会評議員 日本文藝家協会会員

〈評論『伝統の探求〈題詠文学論〉』より転載〉

〈2012年9月30日時点〉